知的障がいのある人たちが発信する世界。
そこに、素晴らしい未来が見えてくる。

Challenged チャレンジド

困難な存在の日々、そして旅立ち

製作総指揮：細川佳代子　監督：小栗謙一
製作：able映画製作委員会 代表：近衞甯子　制作：(株)ディレクターズシステム http://dsystem.jp
劇場映画／90分／DCP／5.1ch

映画「幸せの太鼓を響かせて」から7年、
フランスで喝采をあびる瑞宝太鼓の姿があった。

2019年 春 完成！(予定)

「どんなに医学が進歩しても人間が生まれてくるかぎり2%から3%の人が知的障がいのある人として生まれてきます。
それは、神様が私たちに優しさと思いやりの心を教えてくれるために贈ってくださったプレゼントなのです。」
この話をある牧師さんからお聞きした時から私の人生は大きく変わりました。

製作総指揮　細川 佳代子

Challenged チャレンジド

困難な存在の日々、そして旅立ち

製作趣旨

映画「Challenged 困難な存在の日々、そして旅立ち」は、「知的障がいのある人々への理解」を深め真のINCLUSION社会の実現をめざす目的で、20年程前から細川佳代子製作総指揮で始まりました活動の一環として作られます第6作目の映画です。

タイトルの“Challenged”は、アメリカやヨーロッパで使われている言葉で、障がいのある人々を表しています。
本作品は、知的障がいのある“Challenged”たちの意欲あふれる活動の姿を通して、見る人々の心に希望をもたらす未来社会を想い描いていただく作品です。

主人公となるのは、「幸せの太鼓を響かせて～INCLUSION～」で、圧倒的な和太鼓演奏を披露した瑞宝太鼓の7年後の姿です。
彼らは、メンバー数も当時の倍ほどになり、各地での公演活動や学校、施設でのリハビリの支援演奏など、地域コミュニティの誇りとも言えるアーチストとして充実した日々を送っています。そんな彼らに、フランスのナント市から「日仏障がい者文化芸術国際交流祭」で演奏するグループとして招待を受けました。
2017年10月、フランス最大級のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」が誕生した由緒あるシテ・デ・コングレのホールで、彼等は、新曲「天地長久」を見事に演奏し、大喝采を浴びたのです。

30年ほど前、彼らが生活する地域の人々からも歓迎されず、生きていく自信さえ失くしかけた日々からどの様にして希望に満ちた今を取り戻してきたのか、作品ではその経緯と彼らを知る人々からその変化を聞き、辿りながら、その興味深い事実を、私自身の心の内にも問いかけてみたいと思います。

かつて、人間の社会には、長い間、障害のある人々へ偏見と差別の時代を許してきた歴史があります。ドイツでは、ナチによる障がい者への殺戮（後にT4作戦と呼ばれる）という暗い時代の象徴的な出来事がありました。ノーマライゼーションの考え方が生まれた北欧においてさえも長い隔離の時代がありました。その後も収容型の大型施設が世界中に存在してきたのです。この半世紀、様々な人々の叡智と行動によって幾つもの変革を経て世界の情勢は大きくて変わってきました。しかし、真のINCLUSION社会はまだまだ遠く、誤魔化しに溢れています。

本映画では、瑞宝太鼓の他にもプロとして活動をするフランスのヒップホップグループ・アーティピック（Artypique）やベルリンを拠点に演劇活動をするランバ・ツァンバ（RambaZamba）の人々、さらに生きる権利を知的障がいのある自らの力で切り拓くべく、国会議員を目指すスウェーデンの女性など、社会の偏見と無理解から力強く羽ばたき、周囲の大きなサポートに支えられながら、自らの力で未来へ向けてまさにリアルなメッセージを発信している“Challenged”たちの姿を見つめます。

この映画は、2019年の春に完成する予定です。

2018年 秋　　監督　小栗 謙一